

平成16年10月15日

近畿日本鉄道株式会社

京阪奈新線用新型通勤車両「7020系」を東大阪線で運転開始します

近鉄では、平成17年度開業予定の京阪奈新線（生駒～登美ヶ丘間）で使用する新型通勤車両「7020系」を、新線開業に先立ち、12月1日より東大阪線で運転開始しますのでお知らせします。

この「7020系」は、鉄道車両初の通商産業省グッドデザイン商品に選定された既存車両7000系を基本に、車いすスペースや新型高性能制御装置など人や地球にやさしい設備を充実させ、最新技術を用いて開発しました。詳細は下記のとおりです。

記

1. 運転開始時期

平成16年12月1日～(予定)

2. 投入両数

平成16年12月 1日～	6両2編成投入
平成17年 1月22日～翌3月まで	6両2編成投入
合 計	6両4編成24両投入

3. 車両建造費

6両4編成で総額約32億円

4. 「7020系」の主な特徴

外観は、既存東大阪線車両「7000系」のデザインを引継ぎ、白色系を基調にオレンジ色をアクセントカラーとして使用、側面のオレンジとブルーのラインで都会的なイメージを持たせています。内装設備等には、人に、地球に、やさしい設備を充実させ、あわせて省メンテナンス化、コストダウンを実現しました。

- ・車いすスペースを各車両に設置
- ・耳の不自由なお客様に停車駅や行き先を案内するため、LED式車内表示装置を1両当たり4台設置
- ・目の不自由なお客様に扉の開閉を案内するため、案内チャイムを各扉上部に設置
- ・転落防止用外ほろを設置
- ・1人あたりの座席幅を20mm拡大し460mmに
- ・女性やお年寄りのお客様からの「吊手が高い」というご意見を反映して、従来より85mm低い吊手を採用し、従来の高さ1,620mmの吊手と交互に並べて設置
- ・荷棚の高さを1,815mmから25mm低くし、さらに手が届きやすいよう荷棚を手前に拡幅
- ・環境問題に配慮し、新型高性能制御装置を採用、小型化、軽量化、低騒音化、省エネルギー化を実現

その他詳細については添付資料参照

5. その他

東大阪線の既存車両「7000系」9編成についても、京阪奈新線開業に向けて順次「7020系」に準じた仕様にリフレッシュ工事を行います。

「7020系」外観



「7020系」車内



(添付資料)

「7020系」の特徴

1. 人に優しい

体の不自由なお客様への配慮、鉄道利用促進のための快適な車内空間の創造などを考慮した構造にしました。

(1) 体の不自由なお客様への配慮

車いす利用のお客様がより電車を利用しやすいように車いすスペースを各車両に1ヶ所設置した。またそのスペースが通常は立席であることを考慮して、お客様が楽な姿勢をとっていただけるよう窓部分に手すりを設置した。

耳の不自由なお客様に停車駅や行き先を案内するため、LED式車内表示装置を1両当たり4台設置した。

目の不自由なお客様に扉の開閉を案内するため、案内チャイムを各扉上部に設置した。お客様が車両の連結部を扉と間違えられないように、転落防止用外ほろを設置した。

(2) 快適な車内空間の創造

1人ずつの座席を確保できるように座面に所定人数分の凹部を設け、一人あたりの座席幅を460mmに20mm拡大して、お客様にゆったりとお座りいただけるようにした。

女性やお年寄りのお客様からの「吊手が高い」というご意見を反映して、一段低めの高さ1,535mmの吊手を採用し、従来の1,620mmと交互に並べて設置した。

女性やお年寄りのお客様が利用しやすいように、荷棚の高さを1,815mmから1,790mmに低くし、さらに手が届きやすいよう荷棚の幅を手前に伸ばした。

室内照度アップのため、ランプ露出タイプの蛍光灯具を採用した。

全てのお客様に快適な車窓の景色を楽しんでいただけるように、左右方向の視界が広い大型半固定内折れ窓(従来は2連の下降窓)を採用した。

2. 地球に優しい

新型高性能制御装置を採用することで省エネルギー化を行い、かつリサイクル可能な材料を使用することで、環境・省資源問題に配慮しました。

制御装置の冷却には、冷媒を使用しないドライパネルを採用した。

シートのクッションには再生可能なポリエステル樹脂を採用した。

新型高性能制御装置を採用することで小型化、軽量化、低騒音化を図るとともに、一層の省エネルギー化を実現した。

3. 最新技術の結集

VVVF インバータ制御、電気指令式ブレーキなど、これまでの新造車両にも採用してきた技術を新型車両でも踏襲しつつ、利便性向上、省メンテナンス化、コストダウンを実現しました。

(1) 利便性向上

同相同期運転式静止型補助電源装置を採用することで、サードレール特有の電車線瞬断による天井照明の一時停電等を防止した。

(2) 省メンテナンス化

交流コンプレッサの採用によって直流モータに使用しているカーボンブラシが全廃でき、その結果メンテナンスが容易となった。

電磁接触器式高速度遮断器の採用で部品点数が大幅に削減でき、メンテナンスが容易となった。

片持ちシート、パイプ式荷棚を採用することで車内清掃が容易となった。

行先表示器を LED 化することで、字幕取替作業が全廃された。

側窓に半固定式および固定式ユニット窓を採用することで、側窓部からの雨水浸入による鋼体腐食を防止でき、その結果メンテナンスが容易となった。

(3) コストダウン

モニタ伝送システム等をシリーズ 2 1 と共通化することで、設計時間の短縮が図れた。

床下機器の集約・統一化で配線作業等の時間短縮が図れた。

以 上